

1. 岐阜市鶺鴒屋地区調査

山下 悠衣奏

1. 調査概要

地理学研究室では、令和3年度より、岐阜県岐阜市鶺鴒屋地区にて鶺鴒漁と携わる人や地域の空間利用の分析、小瀬の鶺鴒漁との比較による鶺鴒匠の生活空間としての鶺鴒屋地区を明らかにし、価値を鮮明にするという目的で、調査をおこなっている。令和5年度（2023）の調査は5月15日～16日、9月28日の計3日間にわたって実施した。なお、令和6年1月および3月には、9月28日の補足の聞き取り調査を実施する予定である。

2. 調査者・参加者

- ・5月15日～16日：上杉和央、岩本悠梨（4回生）、山下悠衣奏（3回生）、鈴木更紗（神戸市立博物館）、古山実、鳥本浩平、河合一希（岐阜市文化財保護課）
- ・9月28日：上杉和央、岩本悠梨、山下悠衣奏、鈴木更紗、鳥本浩平、河合一希

3. 各調査の内容

1度目の5月15日～16日は、令和4年7月の調査に引き続き、鶺鴒屋地区の民家の土台に利用される石積分布と、新明神社、鶺鴒塚の石造物調査をおこなった。また鶺鴒屋地区内の寺の住職、旅館経営者に、長良川や鶺鴒匠家、鶺鴒との関わりについて聞き取りを実施した。そのほか3軒の鶺鴒匠家を対象に、家の空間利用の調査をおこなった。

家の空間利用の調査では、早朝の準備から鶺鴒い終了後の片づけまでを見学し、道具の収納場所や準備の段取り、年間スケジュールなどを詳細に把握することができた。鶺鴒匠と船頭の関係や、船頭がまかされる作業量は各鶺鴒匠家によって様々であり、鶺鴒への餌やりの時間など飼育方法も異なっていた。

2度目の9月28日は、若宮八幡宮での祭礼を見学し、準備を含めた祭礼の段取りを調査したほか、鶺鴒屋地区内の旅館および仕出し屋経営者に聞き取りを実施した。

若宮八幡宮での「八幡まつり」は、長良天神の宮司と鶺鴒匠が参加しておこなわれた。東鶺鴒の住民が月行事として境内の掃除や祭礼の準備をおこなっており、調査者も準備に参加した。新型コロナウイルス流行以前はちょうちんに火を灯していたが、今年は灯されなかった。

仕出し屋経営者への聞き取り調査では、鶺鴒に直接従事していなくとも、長良川や鶺鴒匠家、鶺鴒と深く関わりがあることがわかり、鶺鴒だけでなく地域内の住民も含めて鶺鴒屋地区を構成し、鶺鴒がおこなわれていることを再認識することができた。

編集後記

フィールド集報の組版作業は、歴史学科文化遺産学コースの考古・建築・地理・文化情報の合同実習メニューとして学生が Adobe 社の InDesign を利用しておこなっている。

今年度は、3年ぶりに多様な場所・フィールドで調査をおこなうことができた。調査時だけでなくその後の作業においても多くの方々からご協力を賜った。ここに改めてお礼申し上げる。

海外の調査も徐々にではあるが再開されるようになった。来年度はまた違うところに行きたいと思う今日この頃である。(き)

京都府立大学文学部歴史学科

フィールド調査集報 第10号

編集・発行 京都府立大学文学部歴史学科

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

発行日 2024年3月30日

印刷 株式会社 北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2
